

金融商品の選び方

2008年2月20日

ファイナンシャルプランナー 小松英二

《 目次 》

1. 経済のトレンド

- ・世界経済はBRICsを中心とした新興国が牽引 3
- ・世界の金融は過剰流動性の渦中..... 4
- ・サブプライム問題の連鎖 5
- ・過剰流動性の行方 6

2. 金融商品と景気、金利、為替動向との相性

- ・景気の低迷時(低金利時)は投資の好機..... 7
- ・金利上昇期は変動金利の金融商品購入が有利..... 9
- ・為替レートが増価に向かう外貨建て金融資産に投資.....12

3. 金融商品の選び方

- ・金融商品の性格15
- ・分散投資の効用18
- ・長期投資の効用19
- ・ファンド活用による資産運用.....20

■ 世界経済はBRICsを中心とした新興国が牽引

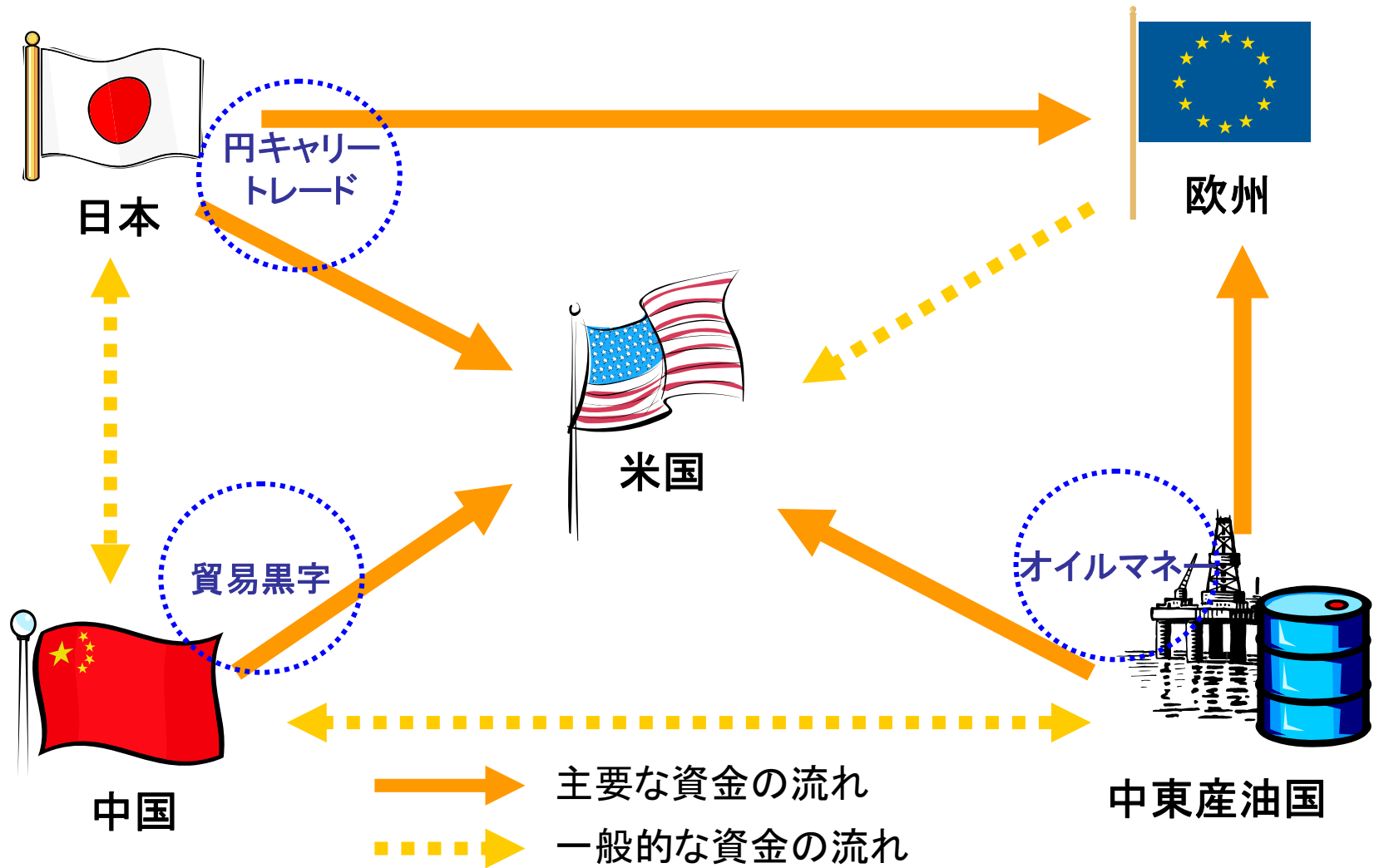
各国の実質GDP成長率

(単位:%)

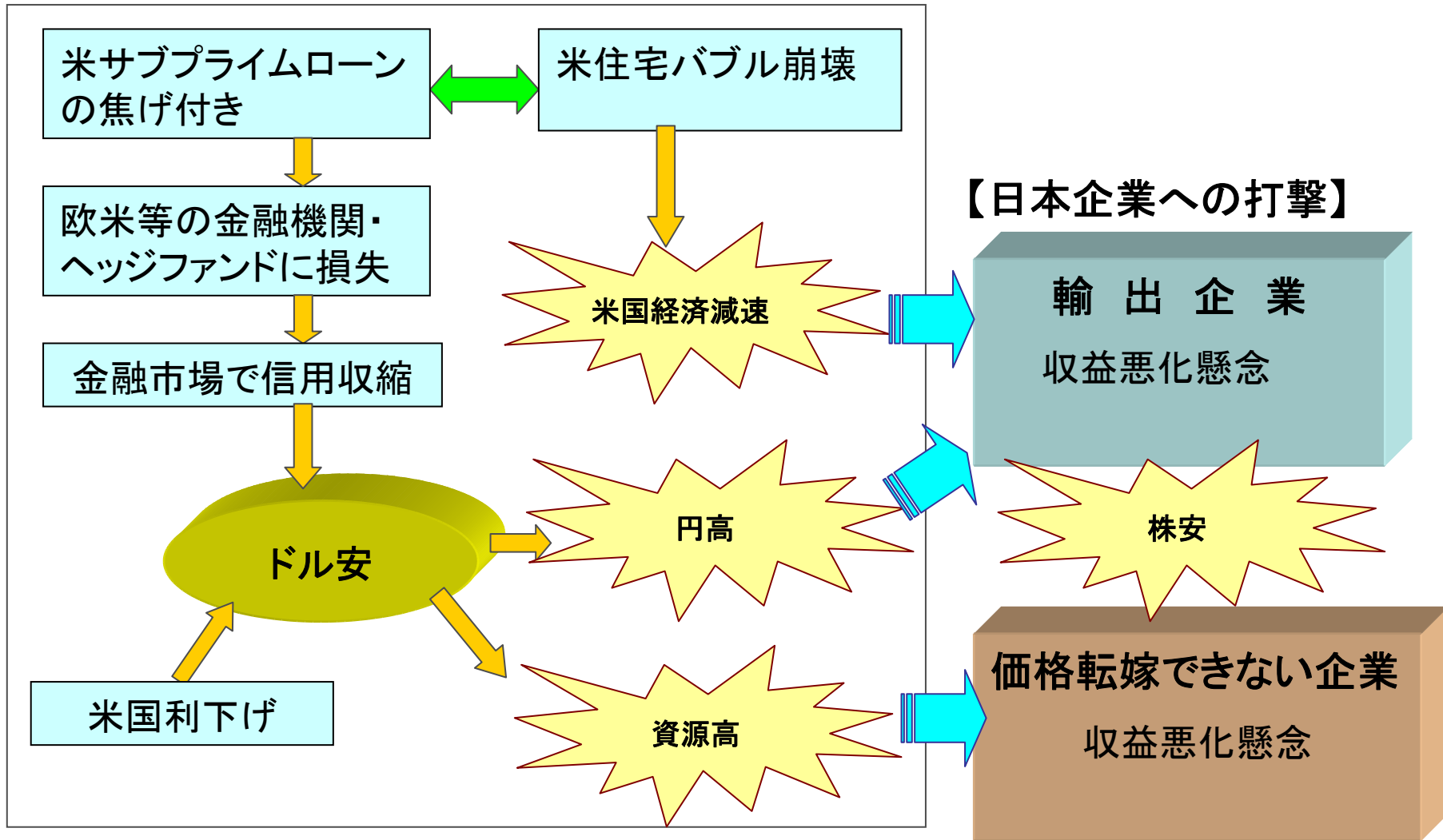
	日	米	加	独	仏	英	伊	露	中	韓	印	ブラジル
2000年	2.9	3.7	5.2	3.2	4.0	3.8	3.8	10.0	8.4	8.5	4.4	4.3
2001年	0.2	0.8	1.8	1.2	1.8	2.4	1.7	5.1	8.3	3.8	5.8	1.3
2002年	0.3	1.6	2.9	0.0	1.1	2.1	0.3	4.7	9.1	7.0	3.8	2.7
2003年	1.4	2.5	1.9	-0.2	1.1	2.8	0.1	7.3	10.0	3.1	8.5	1.1
2004年	2.7	3.6	3.1	1.3	2.3	3.3	1.0	7.2	10.1	4.7	7.5	5.7
2005年	1.9	3.1	3.1	0.9	1.7	1.8	0.2	6.4	10.4	4.2	8.8	2.9
2006年	2.2	2.9	2.8	2.8	2.2	2.8	1.9	6.7	11.1	5.0	9.4	3.7

出所:内閣府「海外経済データ」

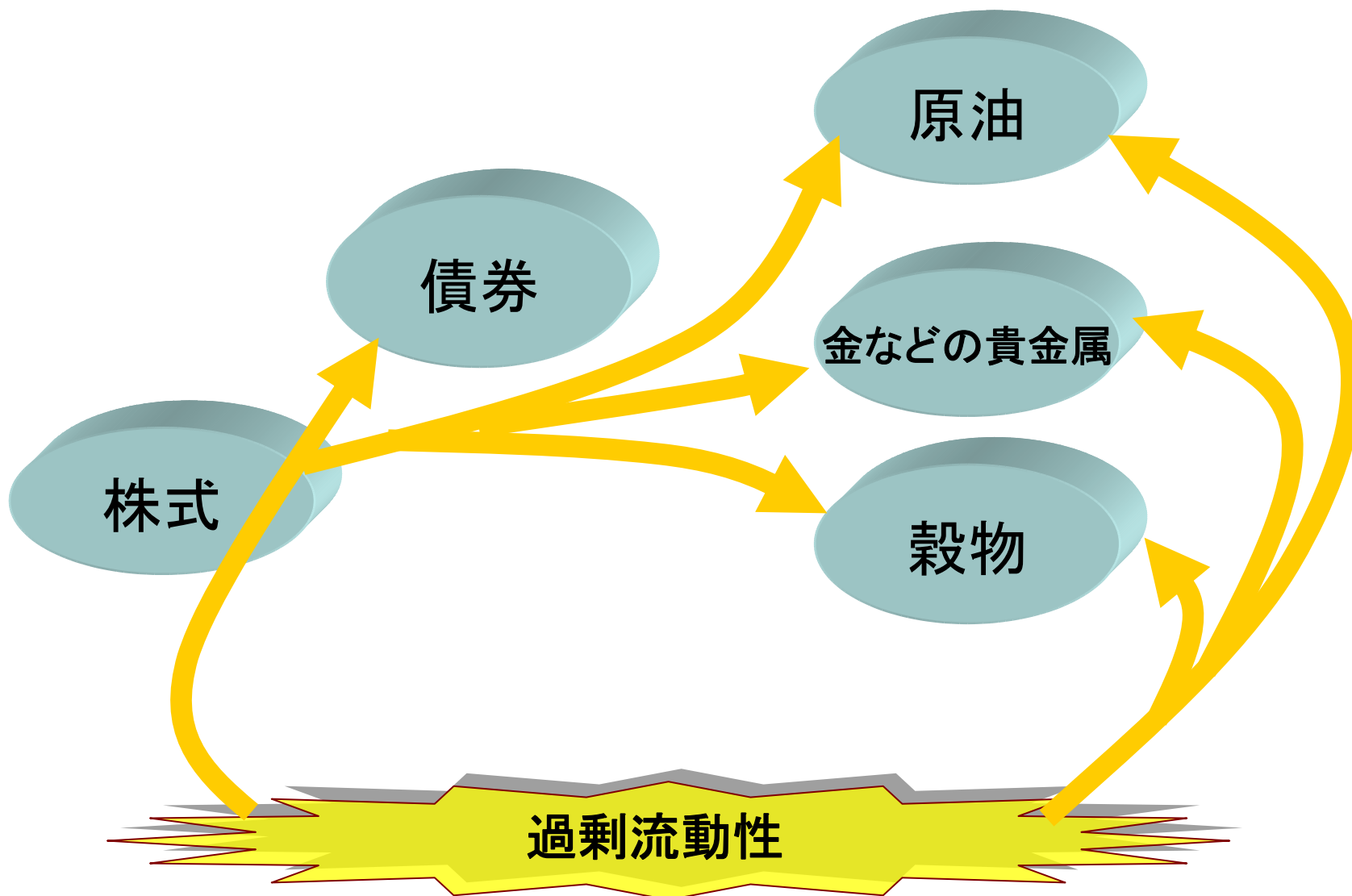
■ 世界の金融は過剰流動性の渦中



■ サブプライム問題の連鎖

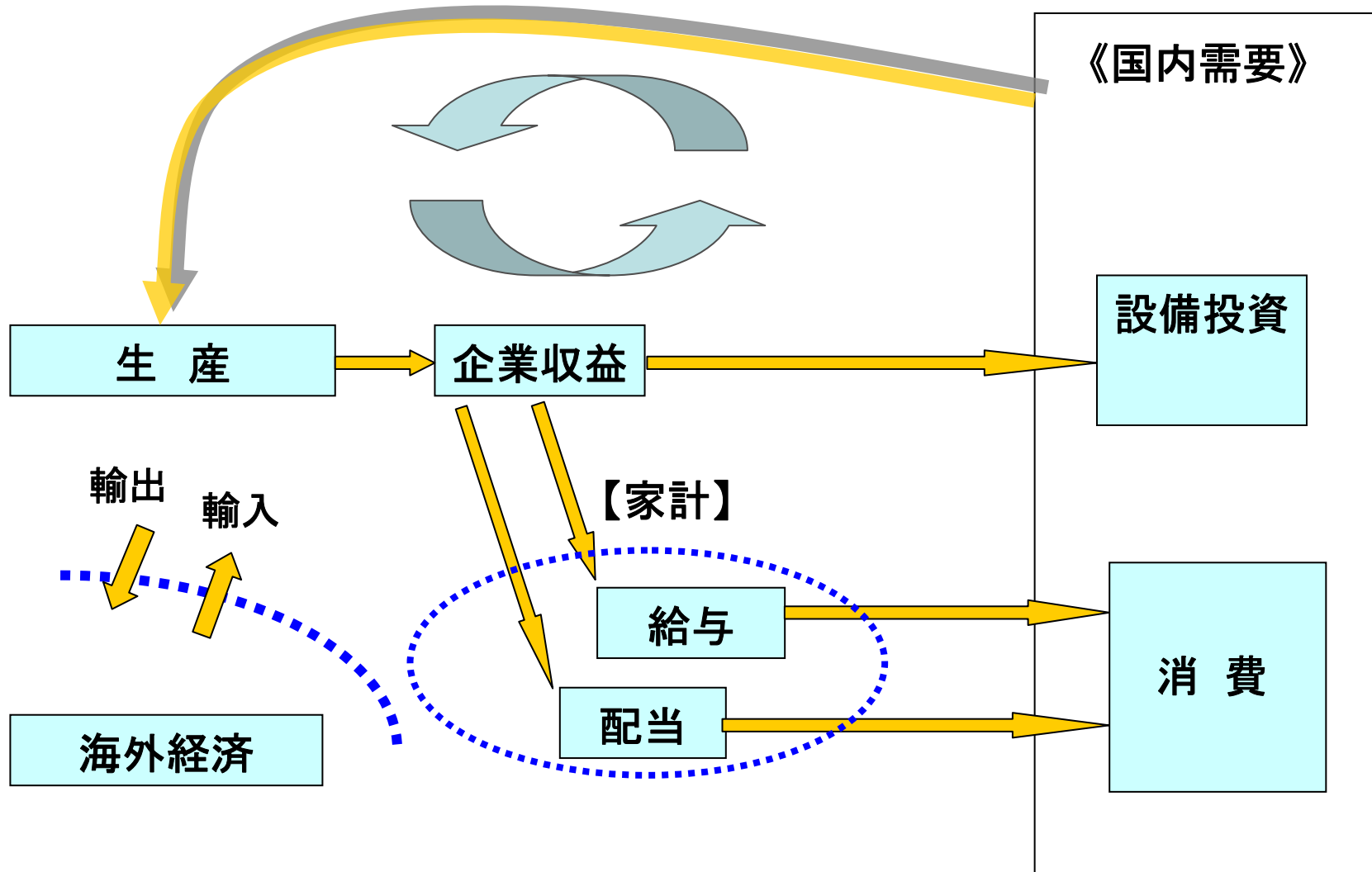


■ 過剰流動性の行方

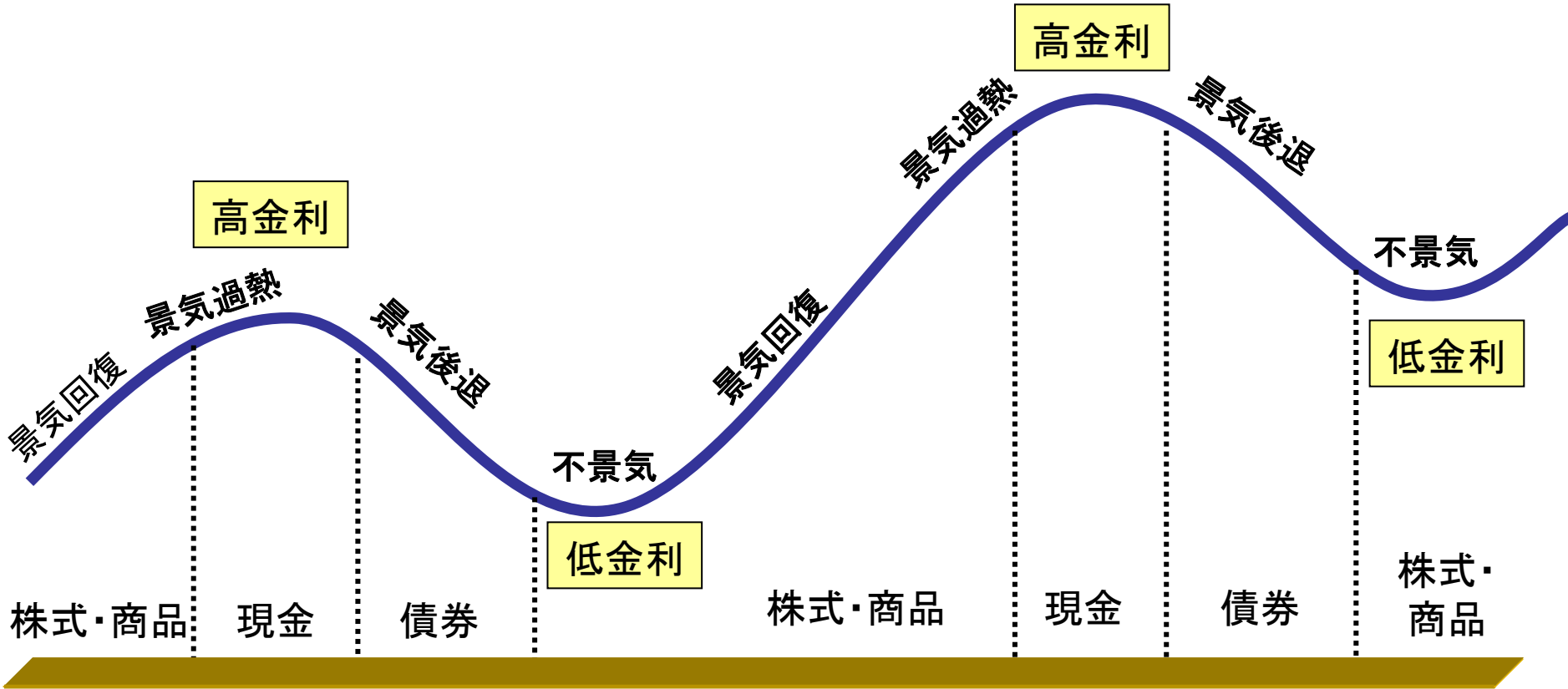


■ 景気の低迷時(低金利時)は投資の好機

景気の波はこうしてつくられる



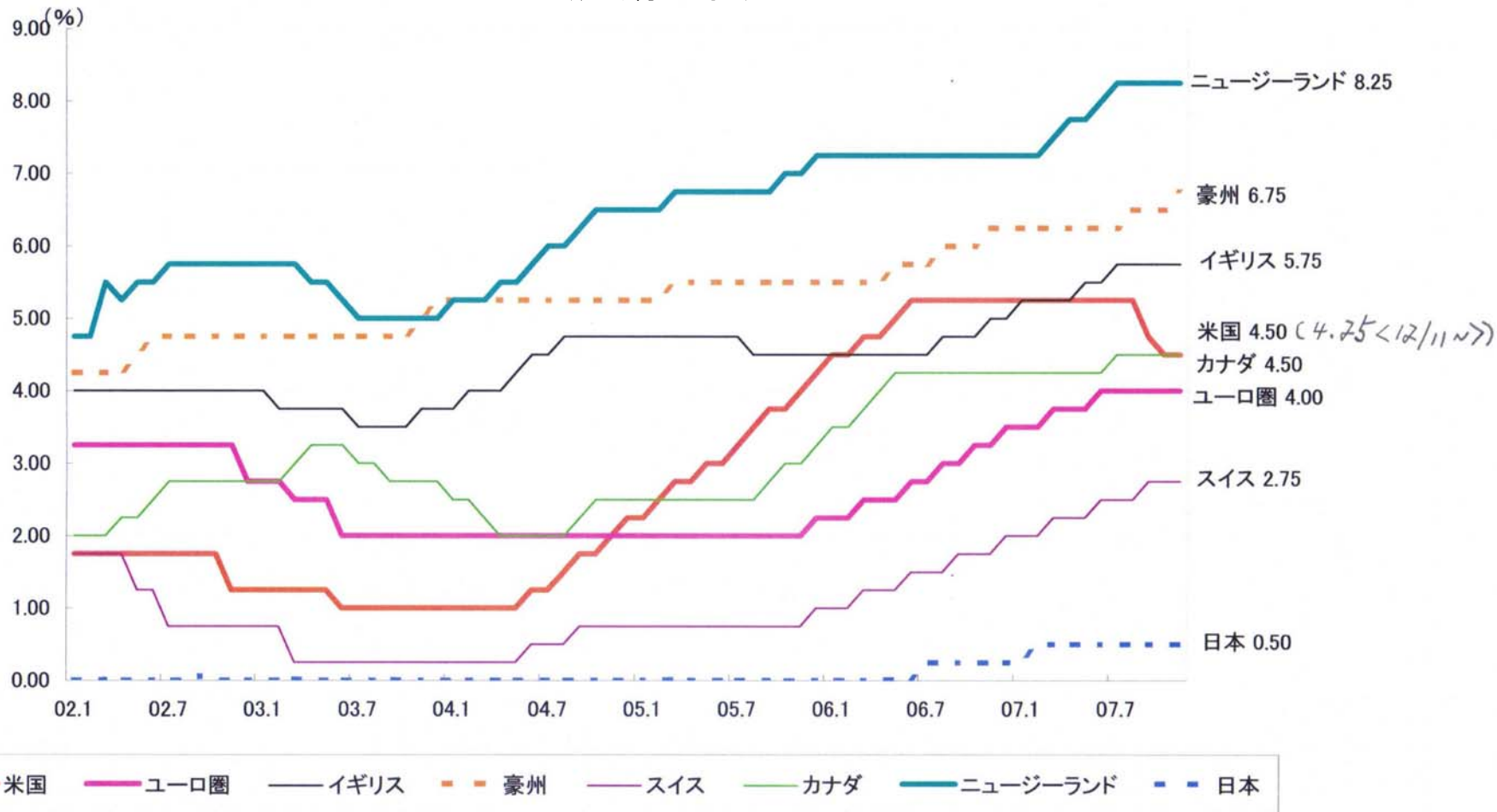
景気の波と投資の関係



■ 金利上昇期は変動金利の金融商品購入が有利

各国の政策金利推移 (短期金利)

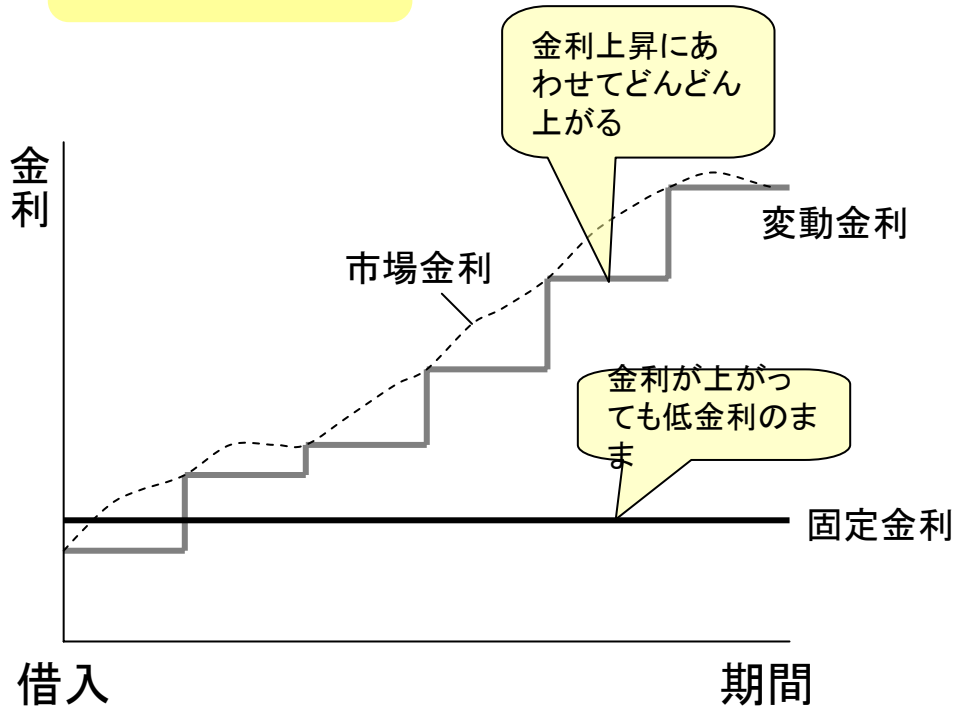
(2007年11月末日現在)



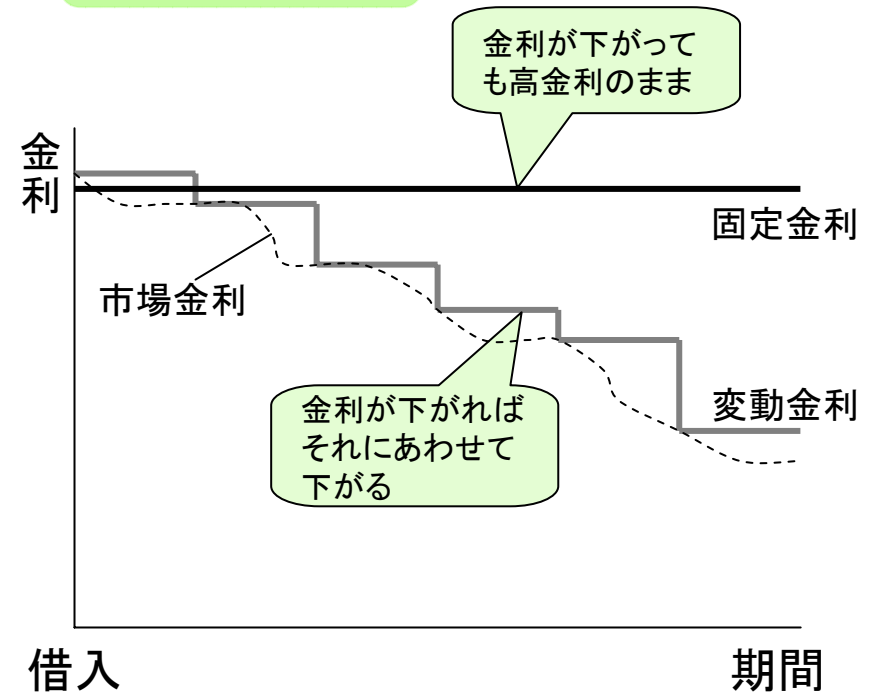
※ 米国:FFレート誘導目標値、ユーロ圏:主要リファイナンス・オペレート、イギリス:レポ金利、豪州:RBAオフィシャルキャッシュレート、
 スイス:SNBのLIBOR3ヶ月物誘導目標中央値、カナダ:カナダ中銀オーバーナイトレート、ニュージーランド:NZ中銀オフィシャルキャッシュレート、日本:無担保コールレート・オーバーナイト物

変動金利と固定金利の違い

金利上昇局面



金利下降局面



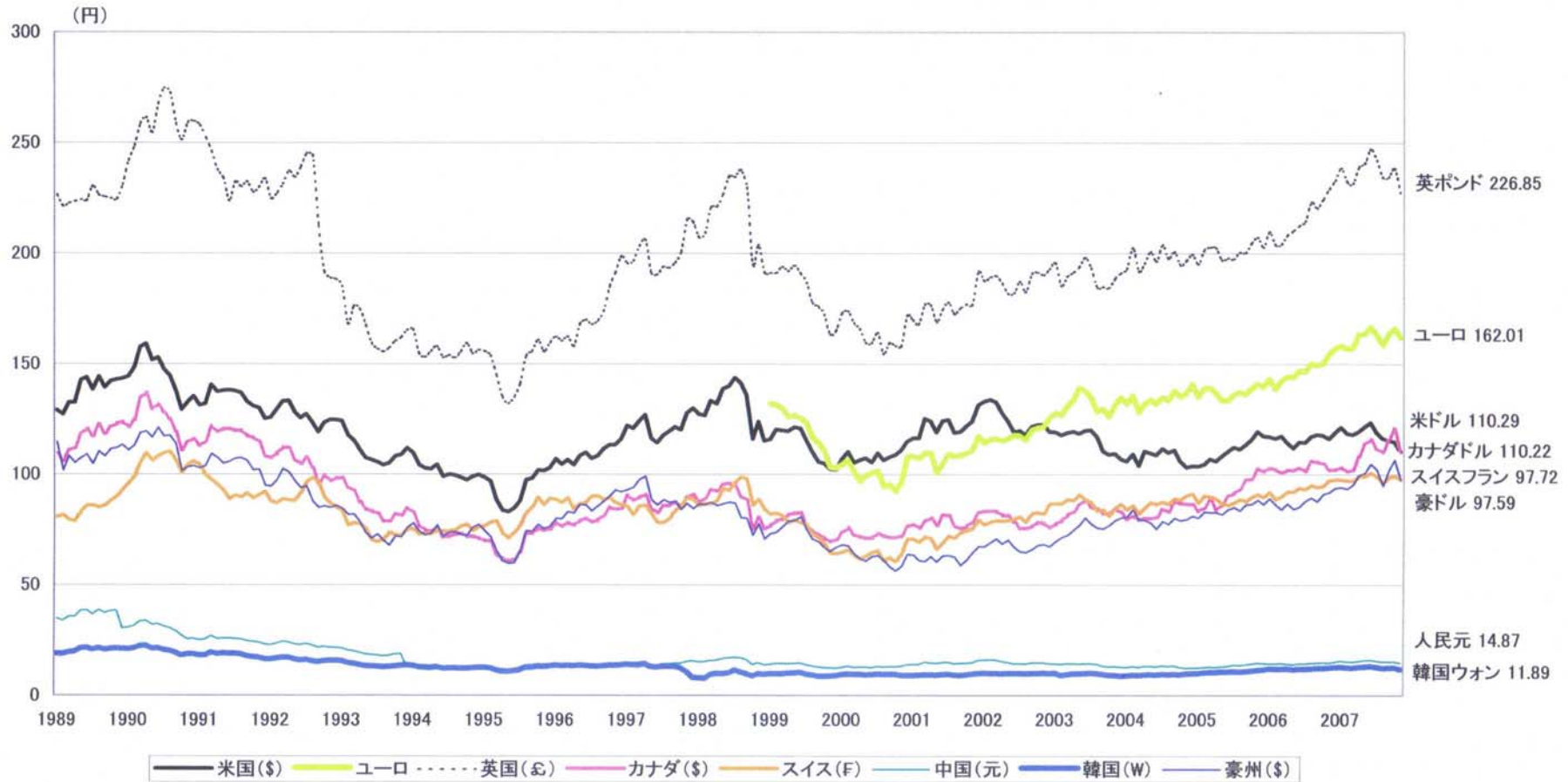
金利上昇局面の金利の使い分け

▽ 現在の金利上昇局面では、変動金利の金融商品の購入が有利。また資金調達はその逆となる。

	金融商品の購入	資金の調達 (住宅ローンを組む)
固定金利	△ (現在の低い金利が将来に わたり適用)	○(有利) (現在の低い金利が将来に わたり適用)
変動金利	○(有利) (金利の上昇にスライドして 金利が上昇)	△ (金利の上昇にスライドして 金利が上昇)

為替レートが増価に向かう外貨建て金融資産に投資

主な為替レートの推移

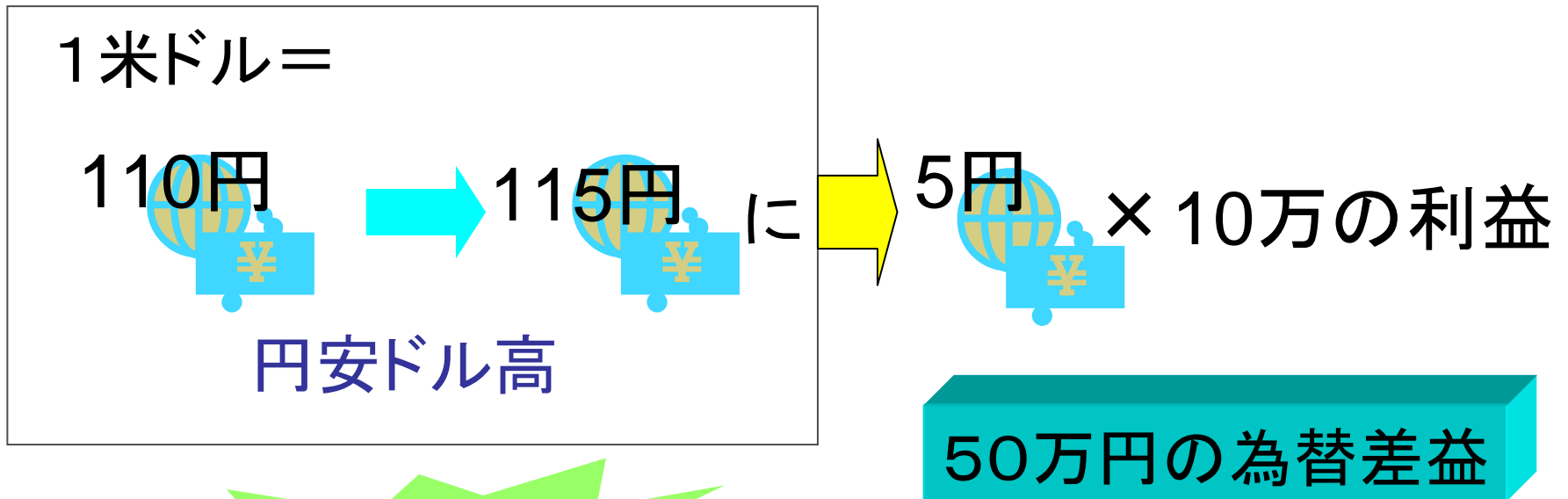


(2007年11月末現在)

データ出典: 日本銀行「金融経済統計」

為替差益の発生

1米ドル=110円で10万米ドル購入



為替が逆に円高ドル安に動けば損失が出る

※ 通貨の交換には為替手数料が掛かりますので、実際の為替差益はその分少なくなります。

為替レートの決定要因

【短期理論】「日々～月単位」で見通すと

(例:円・ドルレート)日本の金利が上昇(アメリカの金利が低下)すると、日本の金融資産の魅力がアップして、円高にシフトする。

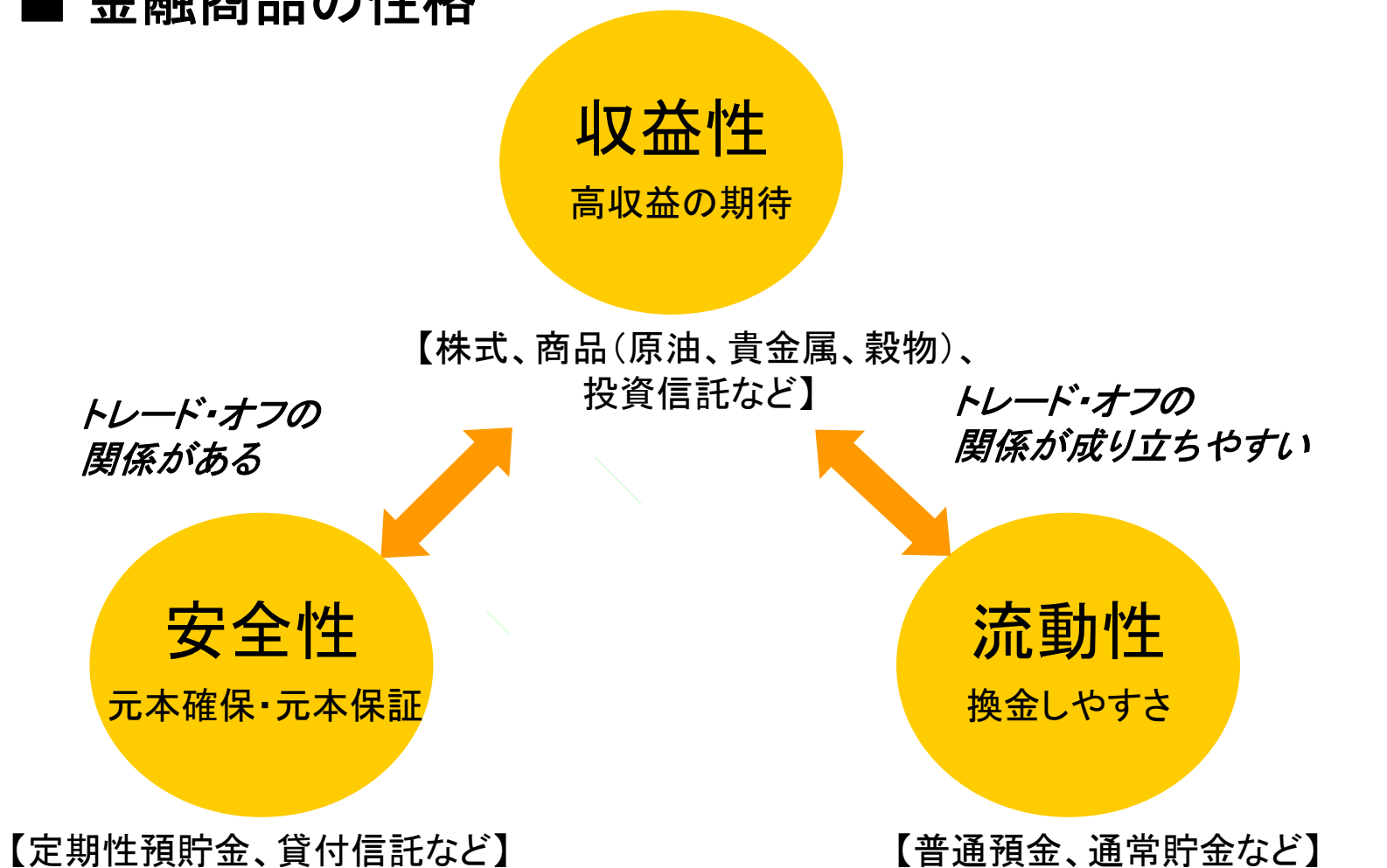
【中期理論】「四半期～4、5年」を見通すと

(例:円・ドルレート)輸出超過により、国内のドルが過剰となると、ドル安・円高シフトが起き易くなる。

【長期理論】「5～10年」を見通すと

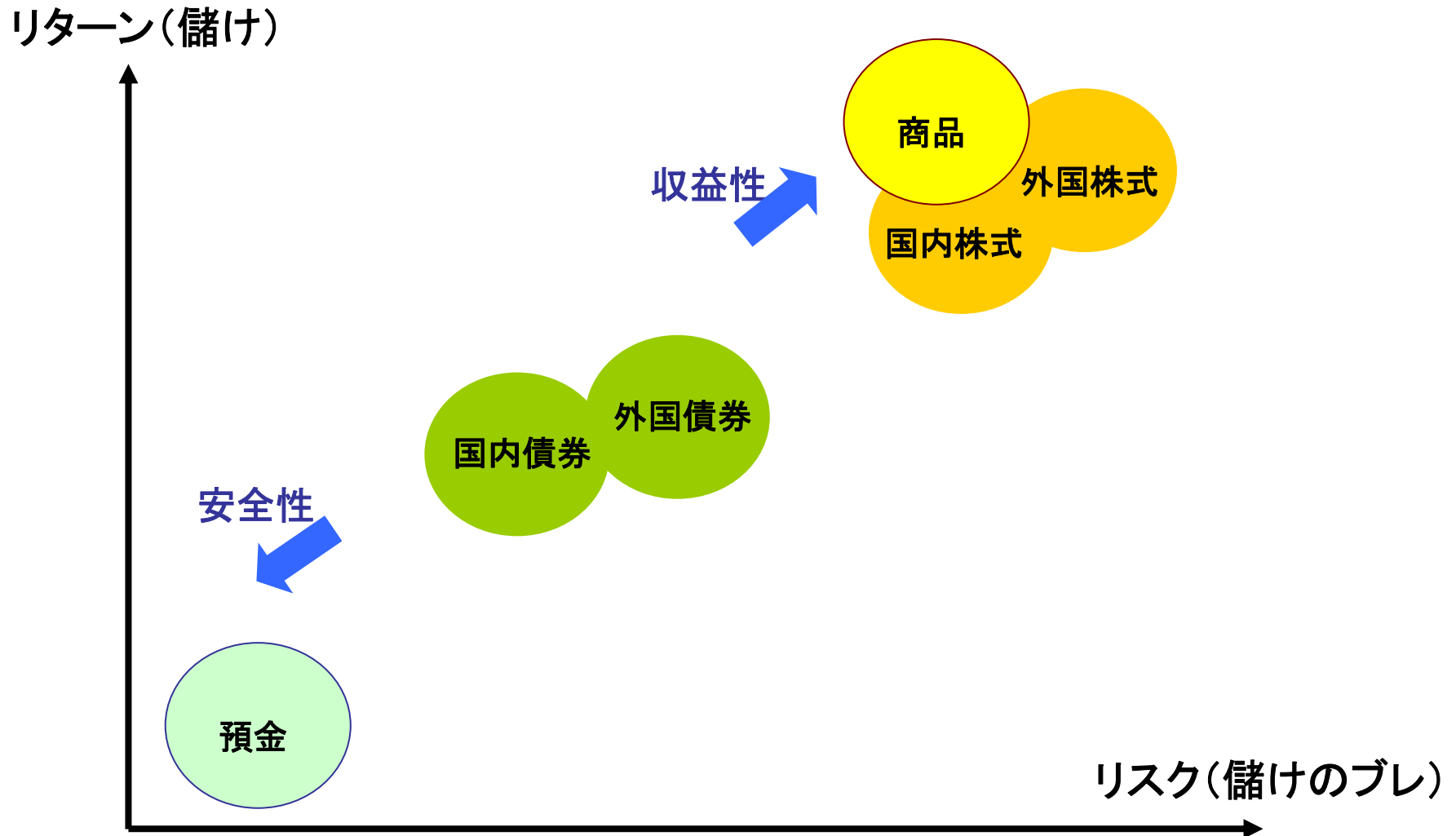
インフレ率(物価上昇率)が低い国の通貨価値はいずれ高くなる。

■ 金融商品の性格



1つの金融商品で3つの性格に優れた商品は存在しない

金融商品におけるリスクとリターンの関係



リスクのない金融商品は存在しない

国内株式

- ・価格変動リスク
- ・流動性リスク
(市場性がない場合)

商品(原油、貴金属など)

- ・価格変動リスク

連動性の低い商品への分散投資

国内債券

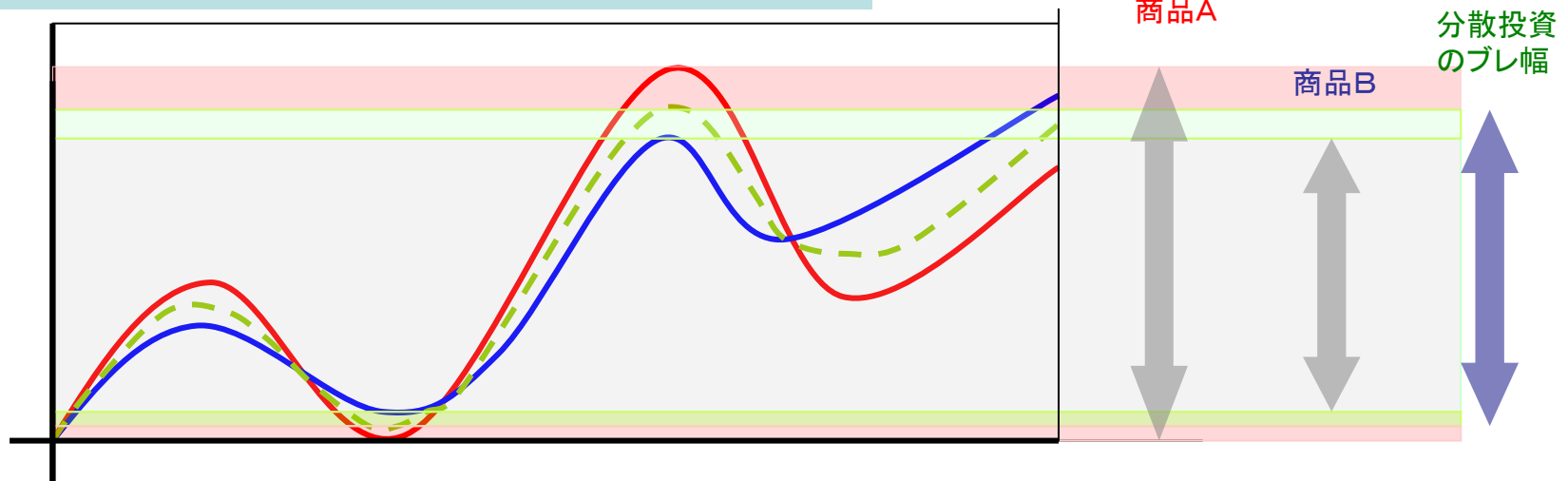
- ・価格変動リスク
- ・金利変動リスク
- ・信用リスク

外貨建て商品

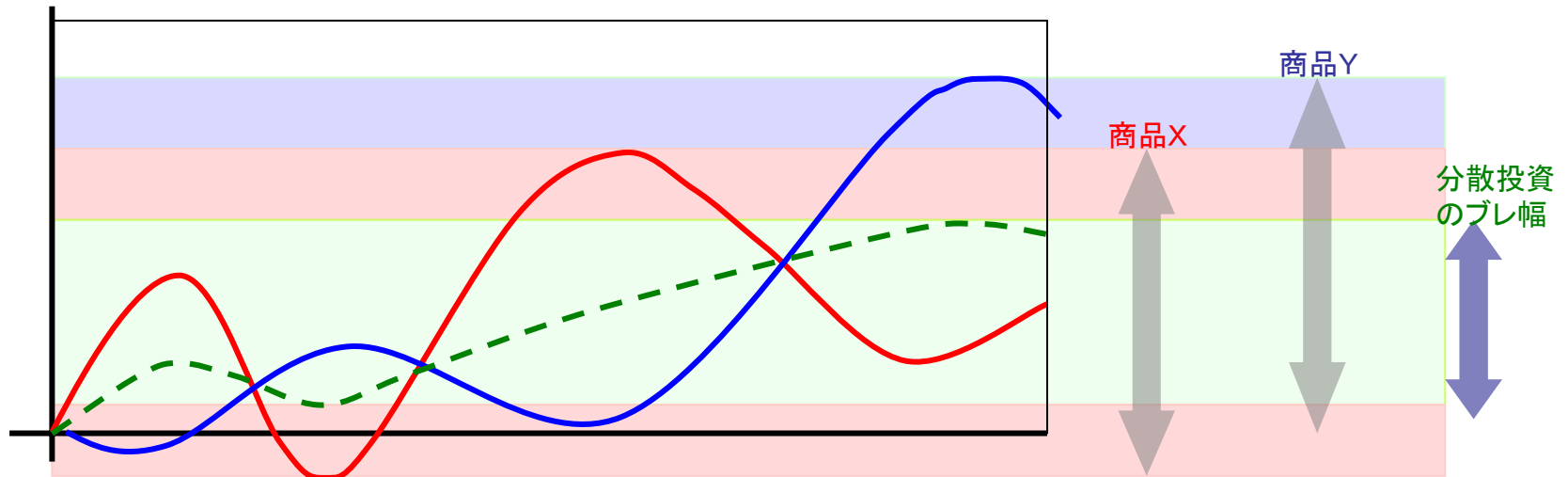
- ・価格変動リスク
- ・為替変動リスク

■ 分散投資の効用

値動きの特徴が似ている商品への分散投資



値動きの特徴が異なる商品への分散投資



分散投資により、より小さなリスクで同じリターンを期待できる

■ 長期投資の効用

資産運用の鍵となる「金利」の働き

▼ 毎月1万円を積み立てて、複利運用すると資産がどう殖えるか (単位:円)

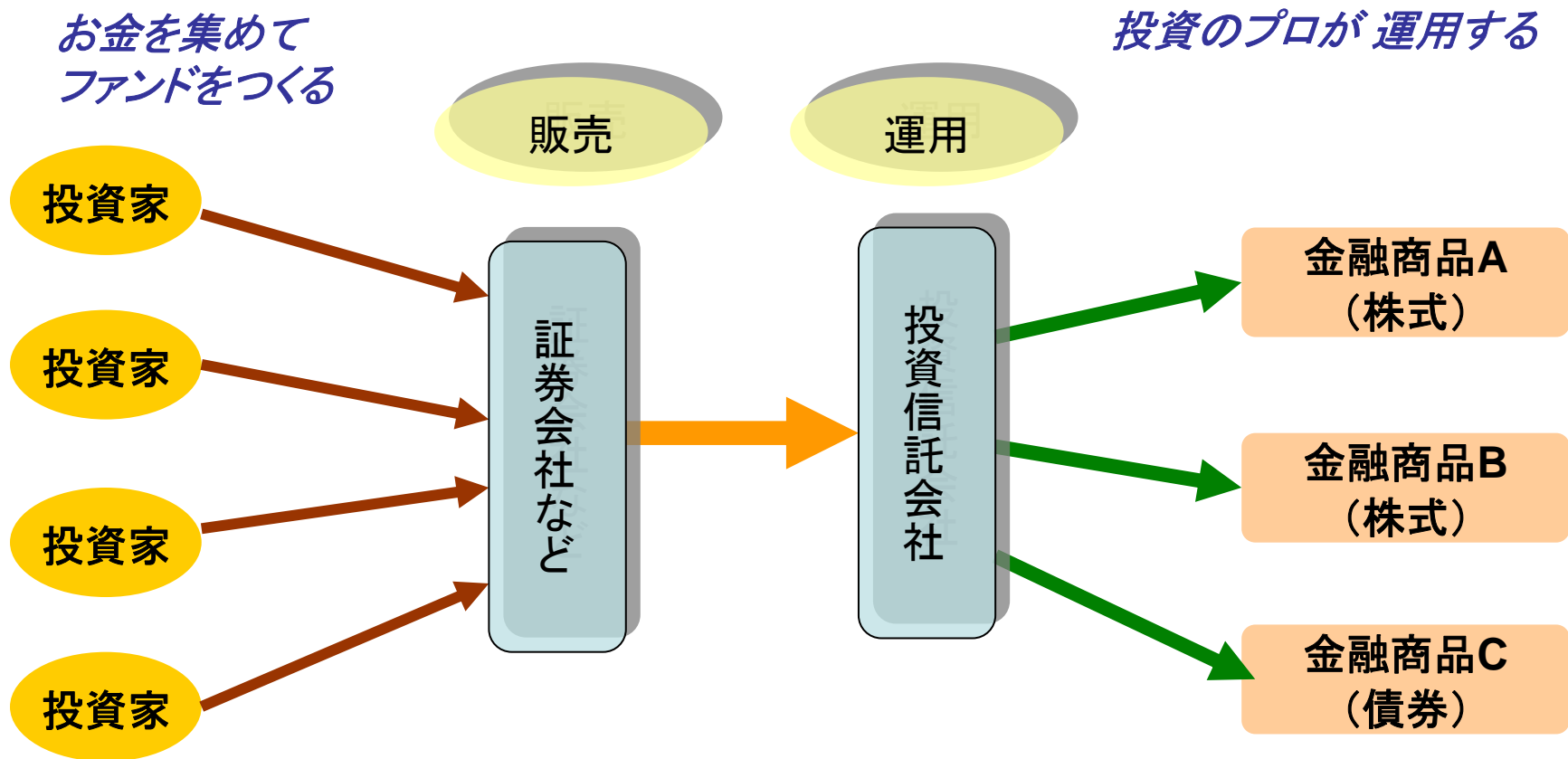
	5年後	10年後	15年後	20年後	25年後	30年後
1%	615,503	1,262,550	1,942,758	2,657,825	3,409,540	4,199,779
3%	648,083	1,400,908	2,275,401	3,291,228	4,471,228	5,841,937
5%	682,894	1,559,293	2,684,026	4,127,463	5,979,910	8,357,264
7%	720,105	1,740,945	3,188,112	5,239,654	8,147,971	12,270,875
9%	759,898	1,949,656	3,812,438	6,728,960	11,295,304	18,444,741

▼ 今持っている1万円を複利運用するとどう殖えるか (単位:円)

	5年後	10年後	15年後	20年後	25年後	30年後
1%	10,510	11,046	11,610	12,202	12,824	13,478
3%	11,593	13,439	15,580	18,061	20,938	24,273
5%	12,763	16,289	20,789	26,533	33,864	43,219
7%	14,026	19,672	27,590	38,697	54,274	76,123
9%	15,386	23,674	36,426	56,044	86,231	132,677

■ ファンド活用による資産運用

投資信託のしくみ



商品ファンドのしくみ

